

1 研究の目的

授業時数や教育内容の削減によって、生徒の学力が低下するのではないかという懸念に対し、文部科学省は、「確かな学力」の向上のために、5つの具体的な方策を示した。そこでは、少人数指導、習熟度別指導などの個に応じたきめ細かな指導の実施を促したり、補充的な学習を行ったり、適切な宿題や課題など家庭における学習の充実を図ったりすることによって、生徒が学ぶ習慣を身につけることを奨励している。

福岡市内の中学校でもこれらに応えるべく、授業形態の工夫、TTによる少人数指導などの研究が進められている。その中でも、多くの学校が様々な理由からいろいろなTTの授業形態を行っている。それらの学校では、より有効なTTの授業形態を模索しており数学研究会にもそのような声が寄せられている。また福岡市の生徒に対するアンケートでは数量関係に対して苦手意識をもつ生徒が多いこともわかった。

そこで本研究では、TTの授業形態のひとつとして単元を通して、様々な学習場面に応じた少人数指導のあり方を福岡市の生徒の実態を踏まえ、数量関係について基礎・基本の確実な定着と個に応じる授業改善に取り組んだ。

2 研究の仮説

学習場面に応じて、課題別・習熟度別などの分割授業やTTによる一斉授業など、学習形態を工夫すれば、生徒は意欲的に自ら考え学習に取り組むであろう。

3 研究の構想

(1) 研究の内容

- TTによる授業形態の実態調査
- 学習場面に応じた少人数指導の在り方

(2) 検証の方法

- 単元の導入時に、課題別の学習を取り入れることが、生徒の興味・関心を高めさせるために有効に働いたことを学習プリントや自己評価を通して分析する。
- 単元の中で、学習場面に応じた少人数指導を取り入れることが、生徒の個に応じる学習環境をつくるために有効に働いたことを自己評価を通して分析する。

4 研究の実際

(1) TTによる授業形態の実態調査

- 研究を進めるにあたり、まず福岡市の中学校におけるTTの授業形態などについてのアンケートを行った。その結果、TTを行っているほとんどの学校で少人数指導の有用性は認めているものの、その形態については様々で、各校ともより有効なTTの授業形態を模索していることがわかった。そこで学習指導法部会では、有効であると考えられつつもあまり行われていない導入・展開・まとめといった学習場面に応じて一斉授業や分割授業を行う授業形態について研究する必要性を感じた。

(2) 「比例と反比例」(1年)

- 生徒は小学校で比例の学習をしてきている。事前の調査で、比例の学習に対して約70%の生徒が苦手意識をもっていることがわかった。そのような生徒の実態を踏まえて、単元の導入で実験・観察を取り入れることにした。そのために、生徒に実験班と研究班のいずれかを選択させた。生徒に自ら選択させることで、学習に対する関心・意欲を喚起させた。次に単元の中頃にコース別学習を取り入れた。その際基礎コースと応用コースを生徒自身に選択させた。

5 成果と課題

(1) 成果

- 福岡市内のTTの授業形態の実態の把握
- 生徒の関心・意欲の高まりと生徒の実態に応じた指導による基礎・基本の定着

(2) 課題

- 生徒がコース選択をする際の手立て
- より効果的な教材・教具の開発

【参考文献】

- ・学習指導要領 文部科学省(平成10年)
- ・個を生かす学習指導 クレセル(平成6年)
- ・数学科複合型ティーム・ティーチングの授業実践
根本 博 明治図書(平成9年)
- ・数学的活動と反省的経験 根本 博 東洋館
(平成11年)